

# 警視庁創立150年記念

Metropolitan Police Department 150th Anniversary



# 創立150年 基本コンセプト

都民への感謝

伝統の継承

未来への飛躍と発展

警視庁は、明治7(1874)年に創立されて以来、時代の変化に適応しながら150年にわたり首都・東京の治安を守り続けてきました。警視庁が歴史を積み重ねてくることができたのは、先人たちの努力と都民の支えがあったからこそです。

今、時代は急速に変化しています。多様化・巧妙化する犯罪やテロの脅威から都民・国民を守り抜くためにも、警視庁の良き伝統を継承しつつ、未来への飛躍と発展に尽力し、都民・国民の信頼に応えることで「世界一安全・安心な国際都市」の実現を目指します。

# 創立150年 記念ロゴ



警視庁創立150年

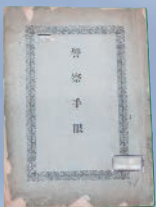
警視庁職員から応募された736点のデザインのうち、大島警察署の女性警察官の作品が記念ロゴに選ばれました。

## ■制作者が作品に込めた想い■

ひと目で警視庁らしさ、安心感、信頼感を伝えたいと思いました。伝統の継承を、図案化したエンブレムの桜葉で表現するとともに、「150」の「0」と旭日章を組み合わせることで未来を明るく照らしている様を表現して、警視庁がさらなる発展を遂げられるようにとの願いを込めました。



# 声なきに聞き、形なきに見る



—— 千古不滅の名言「声なきに聞き、形なきに見る」と唱えた『警察手眼』は、警視庁の創設者である川路利良大警視の訓育を部下が収録したものといわれ、警察職員にとって心のよすがである。

# 日本警察の父 大警視川路利良

警視庁の創設者である川路利良は、天保5（1834）年現在の鹿児島県鹿児島市皆与志町に生まれました。

明治4（1871）年4月、川路は東京府大属となり、権典事を経て、12月典事に昇進しました。

新しい警察制度確立のため、同年10月、東京府に邏卒<sup>ら</sup>3,000名が置かれ治安維持にあたることとなり、翌5（1872）年、川路はその邏卒総長（第5大区）に任命されました。

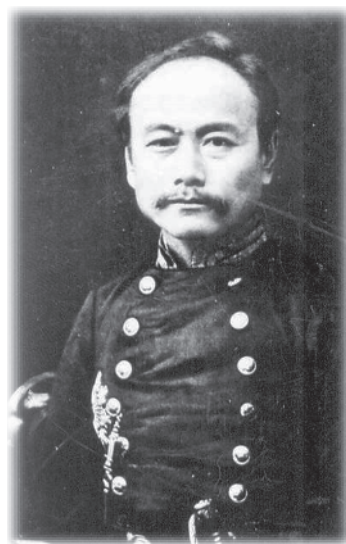
同年8月、全国の警察事務は中央が掌握することから、東京府邏卒も司法省警保寮に移管され、川路は警保助兼大警視に任命されました。

同年9月、新政府の命により、川路は警察制度研究のため欧州へ出張し、翌6（1873）年9月帰朝するや、政府に対し警察制度改革の建議書を提出しました。この建議こそが、内務省及び東京警視庁が創立されるきっかけとなりました。

明治7（1874）年1月15日東京警視庁が設置され、8月、その長である警視長に川路は任命されました。その後、警視長から大警視への改称に伴い、10月15日、川路は再び大警視となります。

明治10（1877）年1月西南の役が勃発するや、3月、川路は陸軍少将を兼任し、別働隊第三旅団司令長官として警視庁警視隊を率いました。

西南の役収束後、明治12（1879）年2月、川路は再び警察制度研究のため欧州へ出張しましたが、滞欧中病に倒れやむなく帰朝し、10月13日、わずか46歳でこの世を去りました。



## 警視庁 150 年のあゆみ

			警視庁の主な出来事	国内外の主な出来事
1871年	(明治 4年)	10月23日	従来の府兵を廃し、新たに邏卒3,000人を置く	
1874年	(明治 7年)	1月15日	東京警視庁設置、長を警視長と定める	
		2月 7日	警視長以下の服制を制定	
		8月19日	巡査に警察手帳を交付	
		10月 3日	逮捕状の制度を設ける	
1875年	(明治 8年)	12月19日	東京府の囚獄、懲役の事務を東京警視庁に移管 (明治36年3月監獄に関する事務を司法省に移管)	
1877年	(明治10年)	1月11日	東京警視庁を廃し、内務省に統合	
		1月27日	内務省直轄の東京警視本署設置	
1879年	(明治12年)	7月14日	馬場先門内に巡査教習所(現在の警察学校)創設 (明治14年1月14日廃止)	
1881年	(明治14年)	1月14日	警視庁再設置、大警視を警視總監と改める	
1887年	(明治20年)	4月 4日	巡査教習所を芝区愛宕三丁目に再設置 (明治39年4月17日警察消防練習所と改称)	
1900年	(明治33年)	6月21日	道路取締規則を制定 一般の通行を左側通行と定める	
1903年	(明治36年)	9月21日	騎馬巡査を配置(騎馬隊の発足)	
1905年	(明治38年)	9月 5日		日比谷焼打事件 日露講和条約に反対した群衆が暴徒化し、警察署や巡査派出所を焼き払う
1911年	(明治44年)	4月 1日	指紋法の採用	



▲明治7年当時の様子

			警視庁の主な出来事	国内外の主な出来事
1912年	(大正元年)	9月13日		明治天皇大喪儀
1913年	(大正 2年)	2月10日		憲政擁護騒擾事件
		6月13日	警視庁官制大改正により警務部ほか設置	
			警察消防練習所を「警察練習所」と「消防練習所」に分離 (昭和23年2月10日警察練習所を警察学校と改称)	
1914年	(大正 3年)	3月20日		上野で東京大正博覧会開幕
1915年	(大正 4年)	11月10日		大正天皇即位の礼
1918年	(大正 7年)	1月 1日	オートバイ(通称「赤バイ」)による交通指導取締り開始	
1919年	(大正 8年)	7月 9日	警視庁自警会創設 (大正9年4月9日財団法人自警会発足、平成24年4月1日一般財団法人自警会に移行)	
1921年	(大正10年)	6月 2日	刑事部設置	
		11月 4日		原首相暗殺事件
1923年	(大正12年)	9月 1日		関東大震災
		10月20日	警察官の拳銃携帯が許可される	
1927年	(昭和 2年)	2月 7日		大正天皇大喪儀
1928年	(昭和 3年)	11月10日		昭和天皇即位の礼
1929年	(昭和 4年)	3月22日	東京警察病院開院	
1931年	(昭和 6年)	10月20日	昭和天皇行幸(旧日本部庁舎落成記念)	
1932年	(昭和 7年)	5月15日		五・一五事件
1936年	(昭和11年)	2月26日		二・二六事件
		8月 1日	従来の「赤バイ」が「白バイ」となる	
		12月10日	警察通信規程を制定 電信または電話で本庁から全署及び各署相互間に一斉に発信できる指令通信機を設置	
1939年	(昭和14年)	9月 3日		第二次世界大戦勃発
1941年	(昭和16年)	12月 8日		太平洋戦争開戦
1945年	(昭和20年)	3月10日		東京大空襲
		8月15日		終戦
1946年	(昭和21年)	3月12日	警察官の警棒携帯採用	
		3月18日	婦人警察官の採用開始	
		5月10日	警察練習所九段分校開設 (昭和24年8月26日本校に改める)	
		7月19日		渋谷事件 渋谷駅周辺における禁制品販売の取締りを受け、台湾人が渋谷署を襲撃
1947年	(昭和22年)	1月 1日	皇宮警察を宮内省から警視庁へ移管し、皇宮警察部設置 (昭和23年3月7日国家地方警察に皇宮警察府を附置)	
1948年	(昭和23年)	1月26日		帝銀事件
		2月10日	本部機構の全面改組により従来の総監官房を総務部に改称	
		3月 7日	警察法施行	
			消防が警視庁から分離独立し、東京消防本部創設 東京都特別区公安委員会発足	
		5月25日	警視庁予備隊設置 (昭和32年4月1日機動隊と改称)	
		10月 1日	110番制度発足	
1950年	(昭和25年)	1月10日	拳銃を警察官全員に貸与	
		6月 1日	自動車警邏隊が発足し、無線自動車(パトカー)の運用を開始	
		9月16日	第一～七方面本部設置	
1951年	(昭和26年)	6月22日		貞明皇后大喪儀
1952年	(昭和27年)	3月 7日	警視庁職員信用協同組合創立 (昭和46年7月1日警視庁職員信用組合と改称)	
		5月 1日		皇居前メーデー事件
1954年	(昭和29年)	7月 1日	新警察法施行(都道府県警察の発足)	
			東京都公安委員会発足	
			第八方面本部設置	
1957年	(昭和32年)	4月 1日	従来の警邏交通部を交通部と改称 警備第一部を警備部と改称 警備第二部を公安部と改称	
		12月10日	警視庁記念日を従来の10月20日から1月15日に改める	
1958年	(昭和33年)	12月 1日	各署におけるパトカー運用開始	
1959年	(昭和34年)	4月10日		皇太子明仁親王殿下御婚儀
		10月15日	ヘリコプター「はるかぜ」導入	



			警視庁の主な出来事	国内外の主な出来事
1960年 (昭和35年)	6月			60年安保闘争(第一次安保闘争警備)
	10月12日			浅沼社会党委員長刺殺事件
1961年 (昭和36年)	4月 1日	東京都警察職員互助組合設立 (平成6年4月1日警視庁職員互助組合と改称)		
	7月10日	警察学校が九段から中野へ移転		
1962年 (昭和37年)	8月24日			三宅島雄山噴火
	12月 1日	警察共済組合設立 (昭和42年5月19日警視庁支部事務局設置)		
1963年 (昭和38年)	3月31日			吉展ちゃん誘拐殺人事件
1964年 (昭和39年)	4月 1日	警視庁航空隊設置		
	10月10日			第18回オリンピック東京大会開幕
1965年 (昭和40年)	1月 8日			日本國粹会けん銃密輸事件 日本國粹会会長及び主要幹部を含む暴力団構成員を逮捕し、拳銃の国内密輸ルートを摘発
1966年 (昭和41年)	2月 4日			羽田沖全日空機墜落事故 千歳空港発羽田空港到着予定の全日空機が東京湾上で墜落
1967年 (昭和42年)	10月 8日			第一次羽田事件 佐藤首相の東南アジア・太平洋州諸国訪問を阻止するデモ隊と警備部隊が羽田空港で衝突
	11月12日			第二次羽田事件 佐藤首相の米国訪問を阻止するデモ隊と警備部隊が羽田地区一帯で市街戦を展開
1968年 (昭和43年)	10月21日			新宿騒擾事件 国際反戦デーに複数の集団が新宿駅等で集団暴力行動を繰り返し騒乱状態に発展
	12月10日			府中署管内現金輸送車強奪事件(3億円事件)
1969年 (昭和44年)	1月18日			東大紛争警備
	4月28日			4.28沖縄奪還反安保労学統一行動警備
1970年 (昭和45年)	3月31日			「よど号」ハイジャック事件
	6月			70年安保闘争警備(第二次安保闘争警備)
	8月 2日	歩行者天国実施(銀座・新宿・池袋・浅草地区)		
	11月25日			三島事件
1971年 (昭和46年)	11月			沖縄返還協定批准阻止闘争警備
	14日			渋谷暴動事件
	19日			日比谷暴動事件
	12月18日			警視庁警務部長宅爆弾殺人事件
1972年 (昭和47年)	2月19日			あさま山荘事件 (28日あさま山荘に警視庁部隊突入)
	11月 6日			日航機ハイジャック事件 米国在住の日本人男性が、羽田空港発福岡空港行の日航機で機長らを拳銃・爆弾で脅し、200万ドルと海外逃亡用のDC8型機を要求
1974年 (昭和49年)	1月15日	警視庁創立100年記念式典 天皇后両陛下下行幸啓		
	8月30日			三菱重工ビル爆破事件
1975年 (昭和50年)	6月16日			三木内閣総理大臣暴行事件
	9月13日	警護課に要人警護SP(セキュリティポリス)発足		
1976年 (昭和51年)	2月 4日			ロッキード事件発覚
1979年 (昭和54年)	6月28日			第5回主要国首脳会議(東京サミット)開催
1981年 (昭和56年)	1月17日	天皇陛下下行幸(本部庁舎御視察)		
	6月13日	皇太子殿下下行啓(本部庁舎御視察)		
1982年 (昭和57年)	2月 8日			ホテルニュージャパン出火焼死事件
	2月 9日			羽田空港沖日航機墜落事故 福岡空港発羽田空港行日航機の機長が、エンジンを逆噴射作動させ推力を減じたことで羽田空港沖へ墜落
1984年 (昭和59年)	3月18日			江崎グリコ(株)社長誘拐事件(グリコ・森永事件)
1985年 (昭和60年)	8月12日			御巢鷹山日航機墜落事故
	10月20日			10.20成田現地闘争
1986年 (昭和61年)	1月10日	「110番の日」制定		
	4月 5日	徳仁親王殿下お成り(本部庁舎御視察)		
	5月 4日			第12回主要国首脳会議(東京サミット)開催
	11月21日			伊豆大島三原山大噴火
1987年 (昭和62年)	4月 1日	警視庁鉄道警察隊設置		
	4月17日	警視庁シンボルマスコット「ピーポくん」制定		
	12月 1日	警視庁国際警察緊急援助隊の編成		

▲第18回オリンピック東京大会

			警視庁の主な出来事	国内外の主な出来事
1989年	(平成元年)	2月24日		昭和天皇大喪儀
		4月 1日	第九方面本部設置	
		6月12日		綾子ちゃん誘拐殺人・死体遺棄事件
1990年	(平成 2年)	11月12日		天皇陛下即位の礼
1993年	(平成 5年)	4月 1日	従来の警ら部を地域部に改称	
		6月 9日		皇太子徳仁親王殿下御婚儀
		7月 7日		第19回主要国首脳会議(東京サミット)開催
1994年	(平成 6年)	4月 1日	現在の制服着用開始	
		7月 1日	「派出所」を「交番」に改称	
		11月15日	警視庁交番相談員運用要綱を制定	
1995年	(平成 7年)	1月17日		阪神・淡路大震災
		2月 1日	従来の防犯部を生活安全部に改称	
		3月20日		地下鉄サリン事件
		3月30日		國松警察庁長官狙撃事件
		6月14日	警視庁広域緊急援助隊設置 (平成25年3月6日警視庁災害派遣隊に改組)	
		7月30日		大和田町スーパー事務所内けん銃使用強盗殺人事件
1996年	(平成 8年)	9月 9日		柴又三丁目女子大生殺人・放火事件
1998年	(平成10年)	8月12日	天皇皇后両陛下下行幸啓(本部庁舎御視察)	
1999年	(平成11年)	7月23日		全日空機ハイジャック・機長殺人事件 飛行機マニアの男が、羽田空港発新千歳空港行の全日空機で機長を隠し持っていた包丁で刺殺
		12月31日		コンピュータ西暦2000年問題対策警備
2000年	(平成12年)	7月 8日		三宅島雄山噴火
		7月25日		香淳皇后大喪儀
		8月18日	「婦人警察官」を「女性警察官」に改称	
		10月12日	第十方面本部設置	
		12月31日		上祖師谷三丁目一家4人強盗殺人事件
2001年	(平成13年)	6月 1日	警察署に警視庁警察署協議会を設置	
		8月 6日	警視庁警察学校が中野から府中へ移転	
		9月 1日		歌舞伎町一丁目雑居ビル火災に伴う多数焼死事件
		9月11日		米国同時多発テロ発生
2002年	(平成14年)	5月31日		日韓共催ワールドカップサッカー大会開幕
		10月 1日	警察手帳の形状変更 個人識別章の着装開始	
2003年	(平成15年)	4月 1日	組織犯罪対策部設置	
2006年	(平成18年)	1月 1日	犯罪抑止対策本部設置	
2007年	(平成19年)	2月18日	パトカーに「POLICE」の文字とエンブレム表示	東京マラソン2007 日本初の大都市型市民マラソン
2008年	(平成20年)	6月 8日		外神田一丁目先路上における無差別殺人事件(秋葉原無差別殺傷事件)
2011年	(平成23年)	3月11日		東日本大震災
2013年	(平成25年)	10月16日		台風26号による伊豆大島風水害
2015年	(平成27年)	4月 1日	人身安全関連事案総合対策本部設置	
2017年	(平成29年)	4月 1日	サイバーセキュリティ対策本部設置 「一般職員」を「警察行政職員」と改称	
		10月31日		SNSを利用した一都四県居住の男女九人に対する連続殺人、死体損壊・遺棄事件(座間事件)
2019年	(平成31年)	4月30日		天皇陛下御退位
	(令和元年)	5月 1日		皇太子徳仁親王殿下御即位
		9月20日		ラグビーワールドカップ2019開幕
		10月22日		天皇陛下即位の礼
2020年	(令和 2年)	3月11日		WHOが新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を表明
2021年	(令和 3年)	7月23日		東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開幕
2022年	(令和 4年)	9月27日		故安倍晋三国葬儀
2024年	(令和 6年)	1月15日	警視庁創立150年	



▲東京2020オリンピック開会式

# 警視庁庁舎の移り変わり



① 鍛冶橋第一次庁舎

東京警視庁の創立とともに、元津山藩邸の一部を改修して庁舎としました。その後、明治10(1877)年1月に内務省直轄の東京警視本署となり、明治14(1881)年1月に警視庁として再設置され、機構の上では変革がありました。庁舎は明治15(1882)年12月4日まで使用していました。

所在地 八重洲町2の4(鍛冶橋内、元津山藩邸)



② 鍛冶橋第二次庁舎

第一次庁舎が老朽のため、明治15(1882)年3月3日、同敷地内に、総工費約1万円をかけて、2階建庁舎の建築に着工、同年12月4日に竣工し、明治44(1911)年4月16日まで使用していました。

所在地 八重洲町2の4(鍛冶橋内、元津山藩邸)



⑤ 馬場先門内仮設庁舎

内務省の敷地の使用許可を受け、大正12(1923)年11月上旬、総工費約81万円をかけて、木造平屋建庁舎の建築に着工、大正13(1924)年2月27日竣工しました。その後次第に増築を行い、39棟を一連とした庁舎で、旧桜田門庁舎ができるまで使用していました。

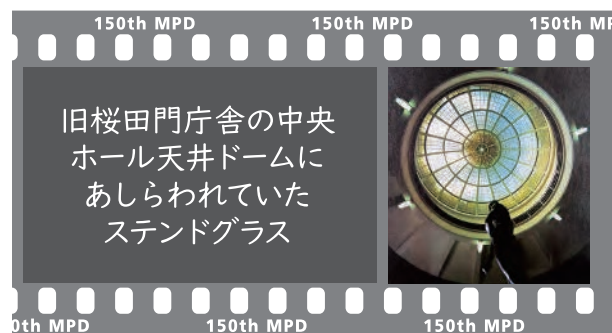
所在地 内務省敷地内  
(現在の馬場先濠皇居側、馬場先門から和田倉門にかけて)



⑥ 旧桜田門庁舎

大正15(1926)年10月28日、現在の桜田門に総工費約420万円をかけて、地下1階、地上5階建庁舎の建築に着工、5年後の昭和6(1931)年5月29日竣工し、昭和52(1977)年1月まで使用していました。関東大震災後の「霞が関官庁街集中計画」の先陣を切った建築でした。

所在地 麹町区外桜田町1番地(現在の本部庁舎所在地)



1874  
明治7年

1882  
明治15年

1911  
明治44年

1923  
大正12年

1924  
大正13年

1931  
昭和6年

1976-77  
昭和51-52年

1980  
昭和55年

1

2

3

4

5

6

7

8

鍛冶橋  
第一次庁舎

鍛冶橋  
第二次庁舎

日比谷  
赤煉瓦庁舎

震災後の  
仮設庁舎

馬場先門内  
仮設庁舎

旧桜田門庁舎

仮設庁舎

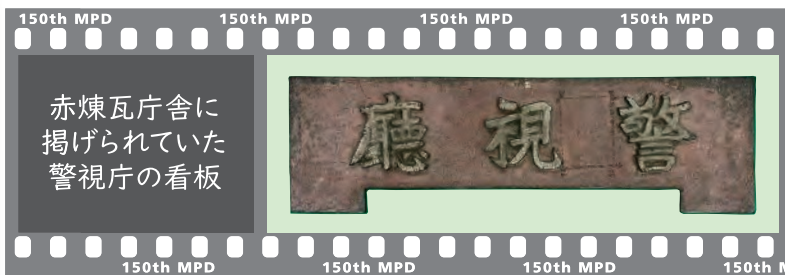
現本部庁舎



③ 日比谷<sup>れんが</sup>赤煉瓦庁舎

鍛冶橋第二次庁舎が東京駅敷地に編入されるため、明治39(1906)年8月8日、日比谷濠端に約3,357坪の敷地に、総工費約48万円をかけて、赤煉瓦造3階建庁舎の建築に着工、明治44(1911)年3月30日竣工しました。大正12(1923)年9月1日に関東大震災で焼失するまで使用していました。

所在地 麴町区有楽町1の9  
(現在の千代田区有楽町1丁目9番)



④ 関東大震災後の仮設庁舎

東京府立第一中学校、東京商工奨励館、帝国劇場化粧部屋の一部等を借用し、馬場先門内仮設庁舎ができるまで使用していました。



⑦ 仮設庁舎

所在地

- ・本部庁舎 (港区西新橋1丁目2番9号/旧三井物産館)
- ・永田町庁舎 (千代田区永田町1丁目11番39号/東京消防庁旧庁舎)
- ・新橋庁舎 (港区新橋6丁目18番7号/現警視庁新橋庁舎所在地)
- ・警察総合庁舎 (千代田区霞が関2丁目1番1号/現警察総合庁舎所在地)
- ・音楽隊仮庁舎 (荒川区南千住8丁目付近)



⑧ 現本部庁舎

昭和52(1977)年6月8日、約5,915坪の敷地に総工費約271億円をかけて、地下4階、地上18階建庁舎の建築に着工、昭和55(1980)年6月17日竣工し、現在に至ります。

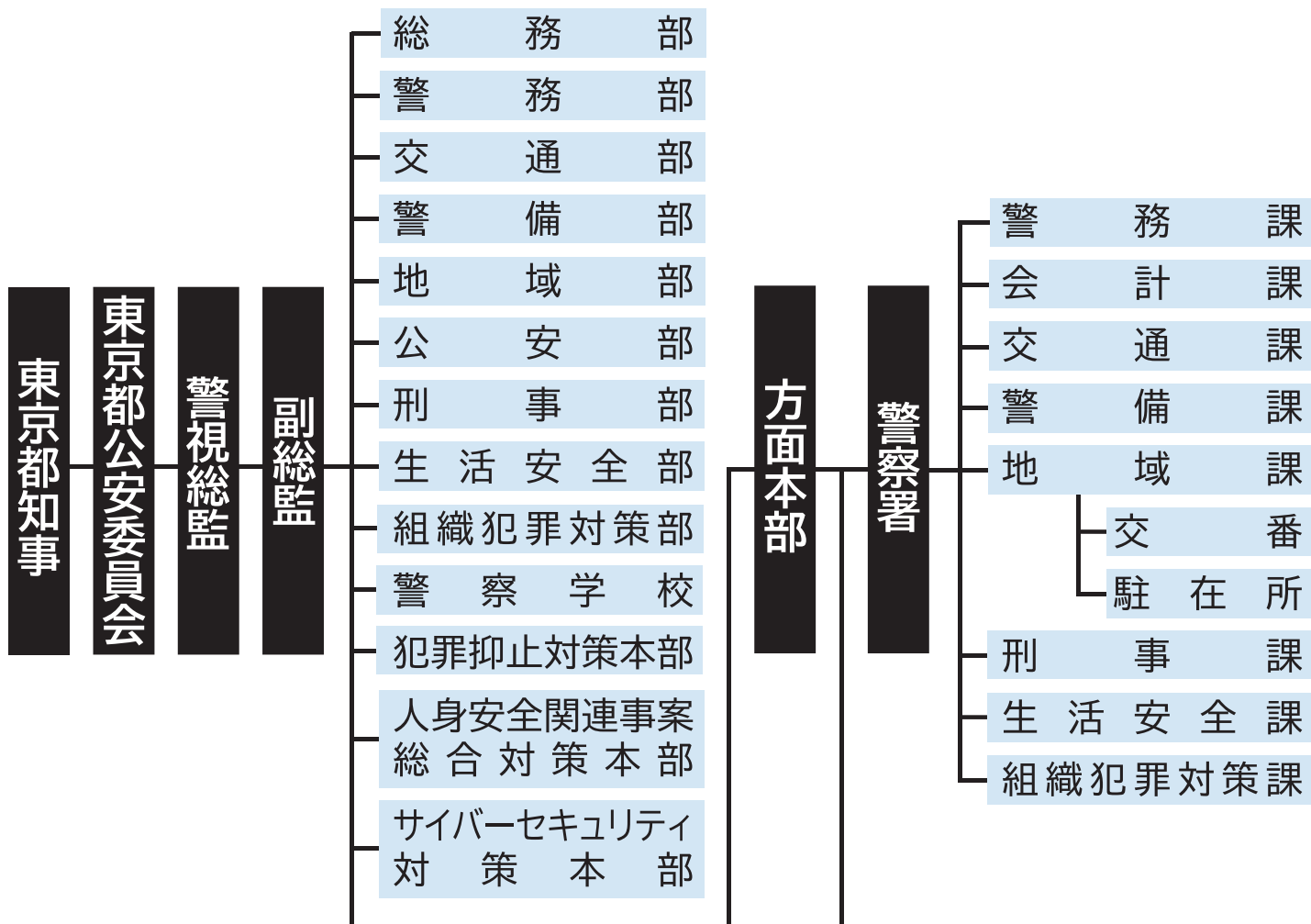
新庁舎の建設にあたり、「伝統ある首都東京の治安の殿堂にふさわしい威容を備えた格調の高い庁舎」、「都民の警察として親しみの持たれる明るい雰囲気のある庁舎」などが、基本構想として掲げられました。

所在地 千代田区霞が関2丁目1番1号

現在、ステンドグラスの一部を現本部庁舎の来庁者見学ホールに設置



# 警視庁の組織・体制



警察官	43,566人	パトカー	1,292台
警察行政職員	3,015人	白バイ	958台
会計年度任用職員	3,174人	警備艇	23隻
警察署	102署	ヘリコプター	14機
交番	825か所	警察犬	34頭
駐在所	257か所	馬	15頭
地域安全センター	82か所		

令和5年12月1日現在



